《第42号》 *** 岩手医科大学附属図書館の沿革と概要 ***

久しぶりのメルマガの発行となり、今号は、新しく岩手医科大学と関わりを持たれる方のために本学附属図書館の沿革、概要についてご紹介いたします。

岩手医科大学附属図書館は、昭和3年に岩手医学専門学校(岩手医科大学の前身)の開設に伴い、第1校舎（現在の3号館）1階で図書課として本の貸し出し業務を始めました。当時の図書室は図書館係員2名で、蔵書数も図書予算も少なく、時には病院の無料診療室となることもありました。昭和5年にようやく図書整理がおこなわれ、図書原簿での登録が始まり、昭和8年には図書購入費1万円、蔵書冊数2千冊に至り、医学専門図書館へ向けてゆっくりと歩みだしたのでした。

昭和11年には岩手医学専門学校雑誌の交換が始まり、国内の主な医学雑誌紀要類が備えられ、昭和26年に外国雑誌の購入が50数誌まで増えたと記録に残っております。組織的には、それまで教授が兼任していた図書課長はこの年から「館長」の呼称が使われ、初代館長には解剖学の二井教授が就任され(現在の澤井館長は13代目)、その頃には蔵書も1万冊まで増えました。

昭和27年にはアメリカのロックフェラー財団から1年間外国雑誌の寄贈をうけ、また、同年には県や市からの助成金の一部で閲覧室と書庫を整備し、図書室は3号館1階から3階へ移転しました。昭和30年代には各教室に分散された図書を集中管理する制度を確立させ、それまでレントゲン写真室に依頼していた文献複写も図書館でおこなわれるようになりました。

昭和40年には歯学部･教養部が開設されることに伴い、本町キャンパス(旧教養部)に図書館分館が設置されました。その頃には蔵書が5万冊に増え、規程も整備され、組織的にも確立しました。

その後も様々な変遷を遂げて、昭和47年には内丸キャンパスに現在の地下1階地上4階の図書館が完成しました。完成当時書庫は、閉架式のため利用者は自由に入ることはできませんでした。昭和54年には準開架式になり、昭和59年に現在の完全開架式になりました。この頃には蔵書数は15万冊にも及び、昭和61年には書庫スペースの狭隘に対処するため、当初カルテの保管に使われていた地下書庫の2分の1が返還されました。雑誌価格の高騰により、図書への予算配分が激減した時期もありましたが、現在では蔵書数が27万冊にも及び、名実ともに本格的な医学専門図書館となりました。また、平成19年には薬学部開設に伴い、矢巾キャンパスに図書館分館が移設されました。

このように図書館は幾多の苦難を乗り越え、実に82年の歴史を刻んで参りました。所蔵を確認するのにも図書目録カード等を使用しておりましたが、現在はＯＰＡＣを利用し、いつでもどこからでも確認できるようになりました。雑誌も年々電子版へと移行が進み、図書や統計情報もWeb上で公開されるなど、図書館所蔵資料の多様化は進み、医療に関する情報の把握や患者向けの情報提供など豊富な知識と経験が益々必要とされてきております。日々進化している医療情報に対応できるよう今後もスタッフ一同研鑽して参りたいと思います。

＊＊＊図書館トリビア＊＊＊

図書予算も設けられない時代には、学校長の承認のみでの図書購入や、図書課長兼務の教授が自ら図書カードを作成するなどの面白いエピソードが残っています。主に兼任課長1名の勤務で、他出時には、施錠または閲覧中の教授に留守番を頼むなどして、戦時中でも1日も休館せず運営されました。今では考えられませんが、利用者が希少なタイプライター（昭和46年に18万6千円で購入）を使い、論文やスライド作成するための「IBMタイプライター規程」もありました。

メールマガジンに関する意見･質問は、運用係 circ2303@lib.iwate-med.ac.jp まで。
<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館